# 第４４回山形市農政審議会　次第

日時：令和８年８月２６日
午後３時より
場所：市役所　大会議室

１　開　　会

２　会長あいさつ

３　議事録署名人の指名

４　議　　事
議第１号
（１）第７次山形市農業振興基本計画　基本計画（骨子案）について
基本計画（骨子案）【資料１】
参考　第７次山形市農業振興基本計画素案（概要版）【資料２】
（２）計画策定の経過及び今後のスケジュールについて　【資料３】

５　そ　の　他

６　閉　　会

山形市農政審議会委員名簿

| | 所属団体名 | 役職 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| １号委員（知識を有する者） | | | | |
| 1 | 国立大学法人　山形大学 | 教授 | フジシナ トモウミ<br>藤科 智海 | 会長 |
| 2 | 株式会社山形新聞社 | 取締役論説委員長 | スズキ マサシ<br>鈴木 雅史 | |
| 3 | 山形商工会議所 | 女性会理事 | ササハラ フミエ<br>笹原 史恵 | |
| 4 | 山形市消費者連合会 | 会長 | スズキ ジュンコ<br>鈴木 淳子 | |
| 5 | 山形市食生活改善推進協議会 | 会長 | ホシノ コ<br>星野 みち子 | |
| 6 | 山形丸果中央青果株式会社 | 取締役相談役 | ニノト チョウサク<br>二ノ戸 長作 | |
| 7 | 株式会社丸勘山形青果市場 | 代表取締役社長 | イノウエ シュウジ<br>井上 周士 | 欠席 |
| 8 | 有限会社内外ファーム（蔵王の恵農場） | 代表取締役 | ヤマダ ショウイチ<br>山田 彰一 | |
| 9 | 株式会社ファーム・フロンティア | 取締役会長 | フジイ ヒロシ<br>藤井弘志 | 欠席 |
| 10 | 山新観光株式会社 | 取締役営業部長（兼）保険部長 | ヤリミズ シンヤ<br>鑓水 信也 | |
| 11 | 株式会社白川 | 代表取締役 | スズキ ジュン<br>鈴木 淳 | |
| ２号委員（農林関係団体役員） | | | | |
| 12 | 山形市農業協同組合 | 代表理事組合長 | オオヤマ トシヒロ<br>大山 敏弘 | 副会長 |
| 13 | 山形農業協同組合 | 代表理事組合長 | クリハラ ヒデユキ<br>栗原 秀行 | |
| 14 | 山形市土地改良区連合会 | 会長 | オオツキ ヨシマサ<br>大築 義雅 | 欠席 |
| 15 | 山形農業協同組合 | 女性部長 | ヨコヤマ ヨシコ<br>横山 佳子 | |
| 16 | 山形市認定農業者連絡協議会 | 会長 | コマツ タケシ<br>小松 武 | |
| 17 | 山形市青年農業士会 | 会長 | カワムラ タカヒロ<br>川村 貴裕 | |
| 18 | 山形丸果園芸連 | 会長 | ナカノ シンゴ<br>中野 信吾 | |
| ３号委員（農林関係行政機関職員） | | | | |
| 19 | 山形市農業委員会 | 会長 | タカハシ トクオ<br>髙橋 徳郎 | |
| 20 | 村山総合支庁産業経済部 | 次長（兼）農業技術普及課長 | イシヤマ キュウエツ<br>石山 久悦 | 欠席<br>オブザーバー<br>経営企画主幹<br>岸　哲嗣 |

農政審議会　幹事会名簿

| | 役職名 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 幹事長 | 農林部長 | 石岡純一 | |
| 幹事 | 企画調整部長 | 奥山泰子 | 欠席 |
| | 健康医療部長 | 川合尚子 | |
| | 環境部長 | 豊後　真 | |
| | 福祉推進部長（兼）福祉事務所長 | 平吹史成 | |
| | 商工観光部長 | 高橋　大 | 欠席 |
| | まちづくり政策部長 | 佐藤秀弘 | |
| | 農業委員会事務局長 | 渡邉俊和 | |
| | 企画調整部次長(兼)企画調整課長 | 片桐道徳 | |
| | 健康医療部健康増進課長 | 齋藤健二 | |
| | 環境部次長(兼)鳥獣被害対策課長 | 樋口潤士 | |
| | 福祉推進部次長(兼)障がい福祉課長 | 清野　開 | |
| | 商工観光部次長(兼)ブランド戦略課長 | 常盤　漢 | 欠席 |
| | 商工観光部次長(兼)観光戦略課長 | 鈴木崇人 | 欠席 |
| | 商工観光部インバウンド推進室長 | 森谷陽子 | 欠席 |
| | まちづくり政策部次長(兼)まちづくり政策課長 | 田村信博 | |
| | 農業委員会事務局次長 | 大沼　功 | 欠席 |
| | 農林部次長(兼)農村整備課長 | 深瀬正智 | 欠席 |
| | 農林部次長(兼)森林整備課長 | 髙橋芳昭 | |
| | 農林部次長(兼)地方卸売市場管理事務所長 | 冨樫竹夫 | |
| | 農林部農政課長 | 三嶋寮紀 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| アドバイザー | ＣＤＸＯ補佐官 | 若林卓也 | |

書記

| | 役職名 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| | 農政課　課長補佐 | 築達道伸 | |
| | 農政課　課長補佐(兼)農政企画係長 | 松田　浩 | |
| | 農政課　主幹 | 荒井典子 | |
| | 農政課　主査 | 西塔友紀 | |
| | 農政課　主任 | 佐藤翔人 | |

| | |
|---|---|
| 事業者 | 株式会社地域計画建築研究所 |

令和８年８月２６日開催

# 第４４回山形市農政審議会　議案

山形市農政審議会

議第１号

（１）第７次山形市農業振興基本計画　基本計画（骨子案）について
基本計画（骨子案）資料１　資料２

（２）計画策定の経過及び今後のスケジュールについて
資料３

資料１

# 第７次山形市農業振興基本計画　骨子（案）

構成案


■はじめに..... 1
　１．計画の基本的事項..... 1
　　（１）計画策定の主旨..... 1
　　（２）計画の位置づけと期間..... 1
　２．山形市農業の概況..... 3
　　（１）統計指標等からみる概況..... 3
　　（２）第６次計画での到達点（進捗管理の状況）..... 3
　　（３）山形市農業の特徴など..... 4
　　（４）山形市農業を取りまく動向（2036 年に向けた未来予測、社会の動きなど）..... 5
■第１章　基本構想..... 6
　１．山形市農業の基本理念・目指す姿（目標像）..... 6
　　（１）山形市農業の基本理念..... 6
　　（２）山形市農業の目指す姿（2036 年の目標像）..... 6
　２．山形市農業の目指す姿（目標像）の具体的なイメージ..... 7
■第２章　基本計画..... 9
　１．施策体系..... 9
　２．施策..... 9
　３．数値目標..... 26
　４．計画の推進と進行管理..... 26


※骨子（案）では省略

■資料編（計画の策定経過）

（１）山形市農政審議会委員　名簿

（２）山形市農政審議会幹事会　名簿

（３）策定経過

# ■はじめに

## １．計画の基本的事項

### （１）計画策定の主旨

・本市は平成 29 年に「第６次山形市農業振興基本計画」を策定しました。基本理念に「市民の食とくらしを守る」を掲げ、「美味しい山形の発信と未来につなげる元気な農業の創造」をメインテーマとし、「持続的に発展する農業の確立」「地域の「強み」を活かした農林業の確立」「市民と農業をつなぎ健康で笑顔溢れるくらしの確立」の３つの基本目標の下で施策を展開しています。

・現行計画が令和８年度をもって計画期間の終了を迎えることから、目指す姿（目標像）を掲げ、その実現に向けた施策を体系的に整理・構築するため「第７次山形市農業振興基本計画」を策定します。

・なお、第７次山形市農業振興基本計画では、下記方針や重点テーマを踏まえて策定し、適切な進行管理により、取り組みの推進を図ります。

■第７次山形市農業振興基本計画の策定方針

方針１　山形市農業の「目指す姿（目標像）」を描き、「バックキャスト」で取り組みを検討する

方針２　「重点テーマ」を設定し、農業者、関係団体等の意見を踏まえて、取り組みを検討する

方針３　「アクションプラン」を策定するとともに、毎年度、事業ごとに進捗を評価・改善を図ることにより、取り組みを推進する

■第７次山形市農業振興基本計画における重点テーマ

「高温・渇水対策」「スマート農業」「中山間地対策」「農福連携」「農商工連携」「農観連携」

### （２）計画の位置づけと期間

①計画の位置づけ

「第７次山形市農業振興基本計画」は、国、県、本市の諸計画と整合を図り策定します。

**（国・県）**

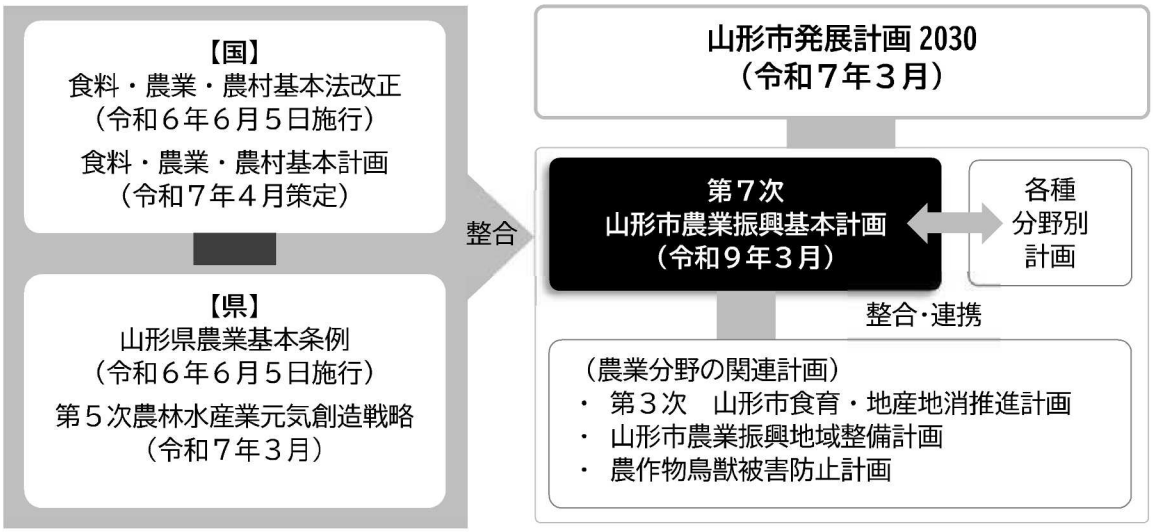
・ 国は令和６年に改正した「食料・農業・農村基本法」に基づき、「食料・農業・農村基本計画」（令和７年４月）を策定しました。食料安全保障の強化、持続可能な農業システムの構築、農業の生産性向上、農村振興など５つの基本理念を掲げ、施策の方向を具体化するとともに、初動の５年間で構造転換を集中的に進めるとしています。

・ 県は令和８年度を目標年とする「山形県農林水産業振興計画」（平成 29 年３月）を策定しています。また、「第４次山形県総合発展計画」（令和２年３月策定）における農林水産分野の具体的なプロジェクトを掲げた実行計画として「第５次　農林水産業元気創造戦略」（令和７年３月）を策定し、取り組みを推進しているところです。

**（市）**

・ 本市は令和７～11 年度までの５年間を計画期間として、「山形市発展計画 2030」（令和７年３月）を策定し、農林分野の施策に「マーケットに対応した戦略的な農林業の振興」「多様な担い手の育成・確保」「農林業生産基盤の整備」を位置づけています。

本計画の位置づけ




②計画の期間

令和９～18 年度の 10 年間とし、５年目に中間評価と必要に応じて計画を見直します。

## ２．山形市農業の概況

### （１）統計指標等からみる概況

＊：農林業センサス（2020 年）　＊＊山形市資料

〇総農家数 3,232 戸（販売農家 1,737 戸、自給的農家 1,495 戸）＊

〇経営耕地面積 4,121ha（田 3,380ha、畑 384ha、樹園地 357ha）＊

〇基幹的農業従事者数 2,651 人（うち 60 歳以上の割合 83.4%）＊

〇認定農業者 358 経営体（耕作面積 2,346ha）＊＊

〇集落営農 18 組織（耕作面積 634ha（主食用水稲 252ha、そば 203ha、大豆 152ha など））＊＊

### （２）第６次計画での到達点（進捗管理の状況）

| 指標名 | 計画策定時（平成 28 年） | 現状値（令和 7 年） | 最終目標値（令和 8 年） |
|---|---|---|---|
| 新規就農者数（人／年） | 23 | ↗ 29 | 38 |
| | 【達成状況等】目標値には達しておらず、近年は横ばいの状態で推移。新規参入者は増加傾向だが、農家継承や法人雇用は横ばいの状態で推移している。 | | |
| 担い手等への農地集積割合（%） | 65 | ↗ 71 | 80 |
| | 【達成状況等】目標値には達していないが、順調に増加。田の集積率は高いが、畑や果樹については、農業者の高齢化や担い手不足が顕著に出ている。※地域計画策定時（R7）における目標地図に位置付けた者（10 年後も営農を継続する見込みの者）の集積率は 54.7%。 | | |
| 水田畑地化の実施面積(ha) | 174 | ↗ 232.2 | 240 |
| | 【達成状況等】令和３年度に目標を達成し、目標を上方修正。新たな目標値には達していないが、現状維持。<br>大豆、そば、麦の転作作物団地の造成等により、実施面積は、計画途中に最終目標を達成。 | | |
| 中山間地域の戦略農産物の作付面積(ha)<br>※R3 より設定 | 0.03 | ↗ 0.07 | 0.25 |
| | 【達成状況等】目標値には達しておらず、近年は概ね横ばいの状態で推移。<br>中山間地域では、農業者等が作物導入に向けて、栽培技術や体系づくりなどに取り組みを実施。 | | |
| 水稲を 10ha 以上作付している経営体数(件) | 25 | ↗ 56 | 36 |
| | 【達成状況等】目標値を達成。各地区の中心経営体に農地の集積・集約化が図られ、令和４年度より大幅に増加。 | | |

## （３）山形市農業の特徴など

本市の統計指標や各取組の状況、農業者や市民等への各種調査などから、下記のような山形市農業の特徴があげられます。

**山形市農業の強み・特徴**

①主要な担い手等を中心に、多角的な農業経営が展開
・大規模な面積を担う水稲農家、集落営農・生産組合、果樹農家、少量多品目型の個人農家　等
②多種多様な農産物を生産し、ブランド確立、営農支援体制、出荷設備が整っている
③新規就農者や後継者育成の支援体制の整備の推進
・施設団地やトレーニングファームの整備
④「農地調整委員会」、「地域まるっと農地中間管理方式」による農地集積ノウハウの蓄積
⑤他地域と比較し、農業生産がしやすい自然環境
・昼夜・季節の寒暖差が大きい、大規模災害リスクが相対的に低い、質の良い水　等
⑥山形大学と連携した中山間地域モデル等の研究が推進
⑦県内最大の消費地を抱えており、地産地消や農商工連携が推進
・直売等による顧客獲得、加工事業者など異業種との連携が図りやすい
⑧「農」に関心がある市民等が一定数あり需要がある
・市民農園や体験講座などの申込、サポーター制度の登録があり需要が高い
・「山形市産農産物の消費を増やしたい」と回答する市民の割合が 68%
⑨魅力ある観光資源（県内最多の入込客）
・温泉、自然、樹氷、伝統文化、郷土料理 等

**山形市農業の弱み・課題**

①担い手の高齢化・後継者不足、繁忙期の人手不足
・農業従事者の高齢化により、高収益作物や新規品目への転換が限定的
・さくらんぼ、ぶどうなどの果樹、きゅうり等労働集約型作物における人材確保が困難
・個人の担い手だけでなく、集落営農・生産組合の維持が難しくなってきている
②気象災害による農畜産物の品質・収量への影響拡大
・夏期の高温・少雨によるさくらんぼ、水稲の品質、収穫量の悪化、乳牛の乳量や繁殖への悪影響
③施設・設備の老朽化（また更新費用の高騰化）による営農継続への影響拡大
・農業水利施設等の修繕や長寿命化等への対応、水路・農道等の基礎的な保全管理活動の維持
・ハウス施設、水稲の大型機械、搾乳設備・タンク等の更新負担の増加
④中山間地域の割合が比較的大きい（小区画・分散・傾斜・大きな法面など）
・農地の集積、大区画化、スマート機械の適用の阻害要因、鳥獣害被害による営農意欲の低下
⑤農地情報の集約が困難な状況
・農地流動化が停滞気味であり、農地集積による農業の効率化を阻害（特に、果樹の園地承継）
⑥市民等の「農」への関わりが薄い（入口を増やす＆ステップアップ）
⑦支援制度・支援体制の一層の拡充・強化
・農業者個人だけでなく、集落やエリア（面）、広域組織（受け皿）、分野横断型の支援
・農業経営のステップアップや多角化を図る支援（農家のチャレンジを応援する）
・市、JA、公社、県、中間管理機構などの連携、伴走型の支援（コーディネーターの配置等）

## （４）山形市農業を取りまく動向（2036 年に向けた未来予測、社会の動きなど）

山形市農業を取りまく社会の動向などから、下記のようなプラス要因やマイナス要因があげられます。

**好機・チャンスなどのプラス要因**

①水田政策の見直しと政策転換

②環境負荷低減に向けた取組促進・加速化（みどりの食料システム、持続可能な社会づくり）

③食育や生産現場との距離を縮める取組の強化

・都市住民との接点拡大の下地ができ、地産地消・教育連携・直販・農業体験の機会が増加

④スマート農業、農業 DX、など省力化技術の実装

・スマート農業技術の現場導入の加速、直播栽培や農業 DX の普及・実装化　等

⑤地域計画による「将来の担い手」や「農地集積」の推進（支援施策の充実化）

⑥多様な担い手、多様なライフスタイル、山形市（農業）に関わりたい人が増加

・週末農業、副業、半農半 X、農福連携、関係人口、２地域居住、移住・定住等の取組が加速

⑦「技能実習制度」から「育成就労制度」への移行

・農業分野での人材育成・確保が進む可能性

**脅威・リスクなどのマイナス要因**

①人口減少、担い手不足（労働力や消費力が低下）

〇未来予測（推計）

・山形市人口：24.8 万人（2020 年）→22.6 万人（2035 年）→19.9 万人（2050 年）

・基幹的農業従事者数：2,651 人（2020 年）→1,282 人（2035 年）→623 人（2050 年）

※山形市人口は社人研 R5 推計、基幹的農業従事者数は農林業センサスから指数近似により算出

②農業資材・燃料・飼料の高騰による収益圧迫の継続

③気候変動（異常気象）の顕在化に伴う、高温・少雨や慢性的な水不足の深刻化

④米政策・米価の先行き等、米市場の不確実性

⑤日本の農業・食に関わる情勢変化

・世界の食糧、種苗・肥料・農薬、エネルギー問題、関税等による影響

⑥物流 2024 年問題に伴う輸送能力の不足

・輸送コストの増加等による品質保持、農業経営の圧迫

# ■第１章　基本構想

## １．山形市農業の基本理念・目指す姿（目標像）

### （１）山形市農業の基本理念

本市は、農業を命の源である食料を生産するとともに、国土の保全等を担うという役割を踏まえて、山形市農業の振興を図る上で最も大切にする考え方を「基本理念」として設定します。

**基本理念　市民の食とくらしを守る**

※第５次計画より継続

### （２）山形市農業の目指す姿（2036 年の目標像）

上記の基本理念に基づき、「山形市農業の目指す姿（目標像）」を下記に設定します。

**目指す姿　人と人がつながり、農業が持続的に発展する豊かなまち**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | つなぐ | 農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています |
| 2 | 稼ぐ | 省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています |
| 3 | まもる | 市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています |
| 4 | 知る・食べる | 山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています |
| 5 | 触れる・楽しむ | 多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています |

## ２．山形市農業の目指す姿（目標像）の具体的なイメージ

基本理念の実現に向けて、「山形市農業の目指す姿（目標像）」の具体的なイメージを下記に描きます。

### 1 つなぐ　農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています

●地域での話し合いにより、地域農業のビジョンや農地貸借の取り決めなどが共有され、地域全体で農地を守る仕組みが整っています。

●地域ごとに「誰がどの農地を利用していくのか」が地図で分かるようになり、地域の核となる農業経営体に農地の集積・集約が進んでいます。

●園地の引き継ぎ相談が早くから行われ、地域・市・関係機関等の適切な役割分担により、ベテラン農家の園地や技術が途切れることなく受け継がれています。

●トレーニングファームや園芸団地で栽培技術を学んだ新規就農者が園地を引き継ぎ、直売、加工、**カフェ、観光農園**など、実現したい果樹経営に挑戦しています。

●市民・企業・ボランティアなどの多様な主体の参画や都市と農村の交流により、地域の農業環境の保全が広がっています。



### 2 稼ぐ　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています

●**スマート農業**や直播栽培などの栽培技術、大区画化等による省力化により、農業者の負担を減らし、持続可能な農業が実現しています。

●戦略農産物を中心とした農産物の高収益化が進み、農家所得が向上し、稼げる農業が実現しています。

●法人化や**農商工連携**、輸出や販路拡大など、経営拡大のステップアップが行いやすく、「チャレンジする農業者を応援する仕組み」が整っています。

●農業用施設等の整備や更新が計画的に行われ、安心して生産・加工・出荷ができる体制が整っています。

●持続可能な農業経営が続けられるよう、**高温・渇水**に適した品種転換や栽培技術・設備を導入するなど、気候の変化に適応した取組が広がっています。

●畜産農家による粗飼料の自給拡大や堆肥還元（市内農地での活用）など、耕畜連携による循環型経営に向けた取組が進んでいます。



注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

## 3 まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています

●土地改良施設の長寿命化や、地域により農道や水路が適切に維持管理され、営農できる環境が守られています。

●集落営農の体制強化、作業受託の促進などにより土地利用型作物の栽培が進み、集落の農地を守る体制が整っています。

●**中山間地域**では、地域による鳥獣被害対策をはじめ農地及び水路等の適切な管理により、多面的機能が十分に維持されています。

●草刈り作業の負担軽減、省力化作物の栽培など、農地を荒らさない取組や支援が広がっています。



## 4 知る・食べる　山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています

●**食料品店**や**飲食店**などでの地産地消が進み、生産者の誇りと市民の共感や応援により、地域のブランド力を高めています。

●山形市の食の魅力発信等が**観光客や交流人口**の増加につながり、市外や海外との交流が広がっています。

●高品質で安全・安心な農畜産物や加工品が多く販売され、生産者に固定客（ファン）がつき、国内外での消費が進んでいます。

●山形市産農畜産物の日常的な購入を通じて、大人も主体的に食育を学び、野菜・果物の摂取量が高まるなど、市民の健康な食生活が実践されています。

●農業に触れる機会や学校給食を通して、子どもたちの農や食への関心を育み、地域農業に憧れを持つきっかけになっています。

●山形市産農畜産物が四季を彩り、家庭や**飲食店**などで郷土料理として親しまれるなど、山形市の食文化として根付いています。



## 5 触れる・楽しむ　多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています

●市民農園の利用や農業体験を通じて、個々のライフスタイルに合った形で農業との関わりを深める市民が増えています。

●市内の親子が畑で学び、自然に触れて楽しむなど、農の体験が日常に根付いた暮らしが広がっています。

●農業者同士や**福祉事業者、商工事業者**などがつながり、農に関わる新しい事業の創出（共創）や関係性が築かれています。

●繁忙期の手伝いや SNS での情報発信、寄付など、**関係人口や企業**が農業者や地域を支える関わり方が広がっています。



注:掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

# ■第２章　基本計画

## １　施策体系

**基本理念**　市民の食とくらしを守る

**目指す姿（目標像）**　人と人がつながり、農業が持続的に発展する豊かなまち

つなぐ　稼ぐ　まもる　知る・食べる　触れる・楽しむ

| 最も貢献する目指す姿 | 施策 | | 小施策 | |
|---|---|---|---|---|
| つなぐ | 1 | 多様な担い手の育成・確保 | 1 | 認定農業者への支援 |
| | | | 2 | 新規就農者への支援 |
| | | | 3 | 中小規模農業者への支援 |
| | | | 4 | 多様な人材による農業への参画 |
| | | | 5 | 相談・支援体制の構築 |
| | 2 | 地域農業の持続化 | 1 | 集落援農への支援 |
| | | | 2 | 円滑な農地継承に向けた支援体制の構築 |
| | | | 3 | 農地の集積・集約化の促進 |
| 稼ぐ | 3 | 農業の競争力の強化 | 1 | 農業技術・設備等の支援 |
| | | | 2 | 農業 DX の導入・活用の支援 |
| | | | 3 | 農業経営の高度化・多角化への支援 |
| | 4 | 高収益型農業の推進 | 1 | 水田作物の高収益化 |
| | | | 2 | 園芸作物の高収益化 |
| | | | 3 | 畜産の高付加価値化 |
| まもる | 5 | 農業生産を支える環境整備とリスク対策の推進 | 1 | 気候変動適応向けた農業生産支援 |
| | | | 2 | 農業支援サービスの育成・活用 |
| | | | 3 | 持続可能な営農を支える基盤整備の推進 |
| | | | 4 | 鳥獣被害対策の強化 |
| | 6 | 中山間地域の農業・暮らしの維持 | 1 | 農地・資源利用の促進 |
| | | | 2 | 創造的アプローチによる新たな取組の推進 |
| 知る・食べる | 7 | 農産物の安全・品質確保 | 1 | 環境保全型農業の推進 |
| | | | 2 | 農産物の安全性確保 |
| | | | 3 | 高品質な農産物の生産推進 |
| | 8 | 食育・地産地消の推進 | 1 | ライフステージに合った食育の推進 |
| | | | 2 | 地産地消の推進と食文化の継承 |
| 触れる・楽しむ | 9 | 「農」と触れ合う機会の創出 | 1 | 山形市農業の強みを活かした観光の推進 |
| | | | 2 | 市民の「農」への多様な関わりの創出 |
| | | | 3 | 農福連携の推進 |
| | | | 4 | 「農」を生かした新しい価値の創出 |

＊施策ごとの目指す姿は、「最も貢献する目指す姿」のみを記載（「関連する目指す姿」は省略）

## ２　施策

### 施策１：多様な担い手の育成・確保

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



つなぐ　農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています

**●関連する「目指す姿」**



稼ぐ　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています



まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| １－１ | 認定農業者への支援 | ○認定農業者制度の普及・啓発を推進し、新たな認定の取得やステップアップを促すなど、経営改善計画の目標達成に向けた取組を支援します。<br>○認定農業者のニーズに応じた研修・講習会を開催し、ビジネス感覚の醸成や税制対応など、経営力向上への支援を行います。<br>○認定農業者連絡協議会などの活動支援、農業者同士が情報交換や連携ができる場の提供などにより、生産・経営意欲の向上を図ります。<br>○大規模農家の法人化を推進し、経営管理能力の向上・対外信用力の向上・経営発展の可能性の拡大・農業従事者の福利厚生面の充実を図ります。 |
| １－２ | 新規就農者への支援 | ○国の給付金制度等の活用や市独自の支援により、新規参入者および農家出身者（親元就農）ともに初期投資等の負担を軽減し、新規就農者の確実な定着を図ります。<br>○研修受入組織への支援やトレーニングファーム等を活用した実践的な栽培技術研修を推進するため、地域やベテラン農家との関係構築と、営農技術が未熟な就農初期段階にお |

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| | | ける育成・支援体制を強化し、安定した農業経営の早期確立や新たな挑戦を支援します。<br>●後継者不在の園地を農地中間管理機構や農業法人等が一時的に借り受け新規就農者へと繋ぐ仕組みづくりや、園芸団地等の活用促進など、関係団体と連携した新規就農者の確保を図ります。<br>◎就農初期の所得確保のため、認定農業者や集落営農等の繁忙期における作業マッチング等の仕組みを構築します。 |
| １－３ | 中小規模農業者への支援 | ○女性の農業経営への参画や役割拡大に向けた普及啓発や研修機会を提供するとともに、家族経営協定の締結を推進します。<br>○中小規模農業者に対し、営農継続に向けて農業経営の安定・拡大を図るため農業用機械や施設等の導入、共同利用の取組等を支援します。 |
| １－４ | 多様な人材による農業への参画 | ●農繁期における深刻な労働力不足を解消するため、市、農業振興公社、JA 等の関係機関が一体となった労働力確保の仕組みを構築します。<br>●市内だけでなく、都市部からの副業・兼業人材や関係人口の受け入れを推進するとともに、短時間の農業アルバイトアプリ等の民間サービスとの連携により、農業者の求人活動やマッチングの円滑化を支援します。<br>●民間事業者への農作業委託、農業系大学の学生や高等学校生徒の派遣、援農ボランティア団体との連携等により、労働力の多様化と活用を推進します。<br>●農業分野における外国人材の受け入れに向け、関係団体等と連携した体制整備や、農業者への情報提供等を進めます。<br>●移住・空き家情報と併せて、農地や農作業小屋等の農業関連情報を発信し、多様な人材の農業参入と地域への定着を促進します。 |
| １－５ | 相談・支援体制の構築 | ●幅広い主体からのあらゆる相談にワンストップで対応する「総合相談窓口」の機能を強化し、就農・参入の円滑な受入体制を構築します。<br>●先進農家や関係機関等との連携により、農業技術の習得だけでなく、農地や住まいに関する情報提供、就農初期の不安にいたるまでを一体的に支えるなど、孤立させない持続的なサポート体制を整備します。<br>●首都圏をはじめとする都市部の住民、ＵＩＪターン、壮年層等が本市での就農に興味を持ってもらえるよう、移住・就農イベント等の機会を捉え、本市農業の魅力を戦略的に発信します。 |

## 施策２：地域農業の持続化

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



つなぐ　農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています

**●関連する「目指す姿」**



まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています



稼ぐ　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ２－１ | 円滑な農地継承に向けた支援体制の構築 | ●市、県、農業委員会、農業振興公社、JA 等による横断的な連携体制のもと、将来の経営や農地の継承を見据えた早期相談を促進するとともに、農業者のライフプランに応じた相続・事業承継対策など、円滑な農地継承に向けた取組を推進します。<br>○後継者不在の農地、付帯する農業機械や施設等の有効活用を推進します。<br>○果樹の生産基盤を維持するために、遊休農地の発生防止及び新規参入者等への円滑な樹園地継承を目的とし、園地のマッチングを推進します。<br>●地域において，リーダーシップを発揮できる若い担い手として認定している「山形市青年農業士」の意見を積極的に取り入れ、地域の農地継承を進め、地域農業の持続化を図ります。 |
| ２－２ | 農地の集積・集約化の促進 | ●地域計画の着実な実現に向けて、集落座談会等による地区農業のビジョン策定、地区農業の課題や将来への危機感などの共有を図る取組を支援します。<br>●地域関係者が連携した「農地利用調整委員会」の設立を図り、地域に即した農地集約の調整機能の充実を図ります。 |

| 小施策 | | 概要 |
| --- | --- | --- |
| | | ◎作業の効率化・省力化により担い手への面的集約を加速させるため、県や国等の補助事業の活用を図るなどにより圃場の大区画化を推進します。 |
| ２－３ | 集落営農への支援 | ◎集落営農の組織化や法人化を促進するとともに、既存の集落営農組織における広域的な組織連携や再編を支援し、地域農業を維持するための体制づくりを推進します。<br>●集落営農組織の持続的な経営を実現するため、水田・畑地を活用した収益性の高い作物の導入や土地利用の最適化、省力化技術の導入など、多様な収益確保に向けた取組を支援し、経営の安定化と高収益化を図ります。 |

## 施策３：農業の競争力の強化

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



稼ぐ　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています

**●関連する「目指す姿」**



まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています



触れる・楽しむ　多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ３－１ | 農業技術・設備等の支援 | ○将来的な生産面積や農業経営規模の拡大などに備えるため、農業法人等による施設整備に対する支援を強化します。<br>○農業の競争力強化に向けて、土地利用型作物の団地化を推進するとともに、省力化や効率化に資する農業機械の導入を支援します。<br>○省力化や効率化に資する農業機械・設備の導入に係る負担軽減を図るため、モデル的な農業経営体の事例紹介や県等が実施する技術普及に関する情報を提供します。 |
| ３－２ | 農業 DX の導入・活用の支援 | ●農業機械の自動化、営農管理システムの運用等のスマート農業技術の普及啓発を図ります。<br>●栽培管理や労務管理における ICT や、収穫・運搬等の軽減を図るアシストスーツなどの効果が期待できるスマート農業機械やシステム構築等について、導入を支援し生産性の向上を図ります。<br>○農地など農業に特化した統合型 GIS など、システムの高度化や統合を進め、農政事務の効率化を図ります。 |
| ３－３ | 農業経営の高度化・多角化への支援 | ●産地形成に向け、戦略農産物の見直しと選定を進め、生産の団地化や農地集積、栽培技術の統一、出荷・販売体制の構築を支援します。<br>◎地域資源を活用した農商工連携による取組を支援するとともに、新たな技術や商品開発、販路開拓、経営戦略など、経 |

| 小施策 | | 概要 |
| --- | --- | --- |
| | | 営力向上に向けた取組を推進し、持続可能な農業経営の実現を目指します。<br>●市場や消費者ニーズを踏まえた農畜産物の生産を推進するため、実需者とのマッチングや市場動向に関する情報提供を行うとともに、販売を見据えた生産体制の構築を支援します。<br>○品質向上と安定生産を支援するとともに、伝統野菜や郷土料理など地域資源を生かした販路開拓・情報発信を推進し、ふるさと納税や都市圏への戦略的な販売・PR を通じて、ブランド価値と販売力の向上を図ります。 |

## 施策４：高収益型農業の推進

### （１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



稼ぐ　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています

**●関連する「目指す姿」**



つなぐ　農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています



まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

### （２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ４－１ | 水田作物の高収益化 | ○水田作物の高収益化に向けて、戦略農産物への作付転換や品質・収量の向上に必要な機械の導入を支援します。<br>○適正な水管理や良質な土づくりを推進するとともに、地球温暖化による高温に対応した、安定的かつ高品質な米の生産体制づくりを推進します。<br>○近年は米価の変動が大きい状況にあることから、農業者の安定経営を図るための情報提供を行うとともに、需要に応じた適切な作付を促します。<br>◎直播栽培など、省力・低コスト技術の普及・支援を図ります。<br>○共同防除や航空防除をはじめとする水稲病害虫の防除・安全対策への支援を行うなど、安定生産体制の確立を図ります。 |
| ４－２ | 園芸作物の高収益化 | ○新たな品種の導入など収益性の高い野菜や果樹等の団地化、省力化を推進することにより、産地の強化を推進します。<br>○老朽化した園芸施設の修繕・長寿命化対策を進め、持続可能な農業経営を推進します。 |

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| | | ○省エネ・省力化を可能にする設備や機能性に優れた園芸ハウスの導入を支援し、持続可能な園芸産地づくりを推進します。<br>○近年の高温障害によるさくらんぼ等の収量・品質低下に対処するため、気候変動に適応した生産技術の導入、雨よけハウス等の施設整備への支援を強化します。<br>○安定的な農業経営を持続するためのセーフティーネットとして、野菜価格安定制度や収入保険制度への加入を促進します。 |
| ４－３ | 畜産の高付加価値化 | ●国内他産地などに対する優位性を確保するため、生産量や品質の安定化や魅力の PR を図り、「山形牛」のさらなるブランド化を目指します。<br>○畜産経営の維持・安定化に向けて、家畜改良の促進、家畜防疫対策の強化を図ります。<br>○畜産経営の機能を維持し、安全性を確保するため、施設・設備の更新や長寿命化対策を推進します。<br>○畜産農家の負担軽減や生産性向上を図るため、ヘルパー制度や放牧場の計画的な活用の推進を図ります。<br>◎耕畜連携による堆肥利用の促進とともに、飼料の域内循環を図り、環境負荷の軽減や畜産経営の安定化を目指します。 |

## 施策５：農業生産を支える環境整備とリスク対策の推進

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています

**●関連する「目指す姿」**



稼ぐ　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています



触れる・楽しむ　多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ５－１ | 気候変動適応に向けた農業生産支援 | ○気象情報の早期提供や、気候変動に対応した施設整備や設備更新への支援を行うなど、気候変動への適応を目的とした対策を推進します。<br>○自然災害の発生など、農業者の経営努力では避けられない事態が発生した際に、農業者の経営の継続と安定を図るための支援を行います。 |
| ５－２ | 農業支援サービスの育成・活用 | ○担い手不足への対応や作業の省力化に向けて、農業振興公社による農薬散布や草刈り作業等の農作業受託の充実を図ります。<br>○収穫期等の労働力不足の解消に向けて、多様な人材をマッチングする支援サービスの活用を促進し、適期作業の確保と農作業の効率化を進めます。<br>◎地域農業を支える新たな仕組みとして、建設業者をはじめとする民間事業者等が農業支援サービス事業体として参画することを促進し、その育成を図ります。<br>◎農業者の多様なニーズに対応するため、関係団体との連携を図り、農業支援サービスに関する情報提供や利用拡大に向けた環境整備を進めます。 |

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ５－３ | 持続可能な営農を支える基盤整備の推進 | ○「農業振興地域整備計画」に基づき、農用地の適正な保全・管理を図ります。<br>○農道や水路、ため池などの農業生産基盤の維持や効率化に向けて、関係団体と連携を図りながら、中長期を見据えた施設の維持を図ります。<br>○遊休農地の発生防止に向けて、関係団体と連携を図りながら発生を防止するとともに、地域実情に合った利活用を推進します。<br>○農業・農村がもつ多面的機能の維持・向上に向けて地域の特性を活かした環境保全の取り組みに対し支援を行います。<br>○集落による多面的機能の発揮や農村環境の保全を進めるため、地域住民や企業・団体など多様な主体の参画による地域共同作業など、持続可能な保全管理への支援を進めます。<br>●国が推進する流域治水の一環である、多面的機能支払交付金制度などを活用した「田んぼダム」の取り組みを促進します。 |
| ５－４ | 鳥獣被害対策の強化 | ○「農作物鳥獣被害防止計画」に基づき、捕獲・防護・生息環境管理（環境整備）を柱とする鳥獣被害防止施策を推進します。<br>●鳥獣被害対策実施隊の担い手確保、ＩＣＴの活用をはじめ、防護柵や緩衝帯の整備など、地域と協働した新しい取組みを推進します。 |

## 施策６：中山間地域の農業・暮らしの維持

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



まもる　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています

**●関連する「目指す姿」**



つなぐ　農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています



触れる・楽しむ　多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ６－１ | 農地・資源利用の促進 | ○地域計画の着実な実行を図り、農地集約や農地利用の受け皿づくりなど、集落のビジョンを踏まえた取組を支援します。<br>○中山間地域の特性を活かした作物や、鳥獣被害に強い戦略農産物の産地形成を推進し、遊休農地の発生防止を図るとともに、地域の実情に応じた農地の有効利用を促進します。<br>●集落等による農村環境の保全を進めるため、多面的機能の発揮に資する地域共同作業等の支援を行います。<br>●中山間地域等直接支払制度などの継続的な活用に向けて、事務の効率化や協定の広域化等による体制強化を進め、農地の保全や生産活動の維持、地域資源の適切な管理活動を支援します。 |
| ６－２ | 創造的アプローチによる新たな取組の推進 | ◎規模や地形に制限がある中山間地域の農業に対応するスマート技術や ICT の活用など、地域の実情に応じた技術導入を支援します。<br>●中山間地域の集落維持や日常生活の確保に向けて、農村 RMO（地域運営組織）の形成を通じた住民主体の暮らしの維持や集落営農の体制強化を図ります。<br>◎企業、ボランティア、農業振興公社、関係人口等による新たな協働モデルを構築し、農地保全などの取り組みを実践するモデル地区を重点的に支援します。 |

| 小施策 | | 概要 |
| --- | --- | --- |
| | | ●不整形な耕作条件不利地や遊休農地を有効活用するため、健康増進作物をはじめ、中山間地域における戦略農産物の園地形成を支援し、付加価値の高い農産物の新たな需要開拓を図ります。 |

## 施策７：農産物の安全・品質確保

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



知る・食べる

山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています

**●関連する「目指す姿」**



稼ぐ

省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています



つなぐ

農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ７－１ | 環境保全型農業の推進 | ○オーガニックビレッジ宣言のもと、生産者、消費者、事業者、関係機関が連携し、有機農業の生産・流通・消費を一体的に推進するとともに、地域資源を活用した持続可能な農業と地域活性化につなげます。<br>●土づくりや病害虫防除などの技術実証を進めるとともに、実証成果の普及・啓発により、有機農業の担い手育成と栽培面積の拡大を図ります。<br>◎「みどり認定」の取得を促進し、化学肥料や化学農薬の使用低減を進めるとともに、有機栽培への転換を支援し、環境に配慮した農業を推進します。<br>○環境保全型農業直接支払交付金を活用し、化学肥料・化学合成農薬の使用を原則 5 割以上低減する取組と併せて、地球温暖化防止や生物多様性の保全など、環境保全効果の高い営農活動を支援します。<br>●学校給食への有機農産物の提供やマルシェの開催を通じて、有機農産物の消費拡大と地産地消を推進するとともに、市民の有機農業への理解促進や食育の充実を図ります。 |
| ７－２ | 農産物の安全性確保 | ●安全・安心な農産物の生産と生産性の向上を図る意識の醸成に努めるとともに、国内外の消費者が求める品質の確保に向けた取組を推進します。 |

| 小施策 | | 概要 |
| --- | --- | --- |
| | | ○農作物を病害虫や雑草から守るために農薬を使用する際には、残留農薬や環境への影響に十分配慮し、農薬の必要最小限かつ適正な使用を推進します。 |
| ７－３ | 高品質な農産物の生産推進 | ●生産技術の標準化に向けた栽培マニュアル等の周知、講習会の案内などを通じて、高品質な農産物の安定生産を支援します。<br>○産地の生産基盤の強化に向け、生産団地の整備や産地の集約化を推進し、高品質な農産物の安定生産・安定供給を図ります。 |

## 施策８：食育・地産地消の推進

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



知る・食べる

山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています

**●関連する「目指す姿」**



触れる・楽しむ

多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています



稼ぐ

省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ８－１ | ライフステージに合った食育の推進 | ●「健康」「学び」「環境」「産業」の各分野が連携し、山形市食育・地産地消推進計画に基づく取組を推進することで、市民一人ひとりの健全な食生活の実践を図ります。<br>●教育委員会や学校、農業者等と連携し、子どもたちの食への関心と地域農業への理解を深めるため、学校給食における山形市産農畜産物の活用や農業・食文化に触れる体験学習を充実させます。<br>○乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージに応じた食育を推進するとともに、山形市産農畜産物の価値への理解を深め、健全な食習慣の形成を支援します。また、地域農業への理解を促進し、市民の健康寿命の延伸と郷土愛の醸成を図ります。 |
| ８－２ | 地産地消の推進と食文化の継承 | ●季節ごとの農業体験や収穫イベント、料理教室などを開催し、生産者と消費者が交流しながら、山形市産農畜産物の魅力や地域の食文化への理解を深めます。<br>○直売所や小売店、飲食店等との連携を強化し、生産者の販路開拓や販売機会の拡大を図ることで、山形市産農畜産物の流通促進と地産地消を推進します。<br>○農商工連携による山形市産農畜産物を活用した商品・メニュー開発や、質の高い地産地消に取り組む店舗の充実を図り、地域の食文化の継承と地域経済の好循環を創出します。 |

## 施策９：「農」と触れ合う機会の創出

（１）施策によって実現する「目指す姿」

**●最も貢献する「目指す姿」**



**触れる・楽しむ**

多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています

**●関連する「目指す姿」**



**つなぐ**

農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています



**知る・食べる**

山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています

注：掲載しているイラストは画像生成 AI を使用して作成しています（骨子案段階の仮のイメージです）

（２）施策の概要

◎新規　●拡充　○継続

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ９－１ | 山形市農業の強みを活かした観光の推進 | ○観光農園や果樹産地見学、オーナー制度など、山形市の豊かな農業資源を生かしたグリーン・ツーリズムを推進し、「農」と触れ合いながら地域の魅力を体感できる機会を創出します。<br>◎農業・観光・商工分野の連携により、仙台圏や首都圏、インバウンドなどターゲットに応じたプロモーションや旅行商品の造成を進め、山形市農業の魅力を広く発信します。<br>●日本一の観光案内所をはじめとする地域の交流拠点と連携し、「農」を核とした観光・交流活動や地域イベントの充実により、山形市産農畜産物の認知度向上や消費・販路拡大、交流人口の創出を図ります。 |
| ９－２ | 市民の「農」への多様な関わりの創出 | ○市民農園やコミュニティ農園、農業体験などを充実するとともに、関係団体と連携し、市民が気軽に「農」と触れ合い、農業を身近に感じられる機会を創出します。<br>●農業振興公社や関係機関と連携し、市民農園や農業体験をきっかけに、就農や週末農業、援農ボランティア、農地保全活動など、多様な関わり方へつながる段階的な参画の仕組みを構築します。<br>●若い世代や幅広い市民が主体的に「農」に関心を持ち、関わるきっかけとなるよう、SNS 等を活用した魅力発信を推進します。 |

| 小施策 | | 概要 |
|---|---|---|
| ９－３ | 農福連携の推進 | ●農業者と福祉事業所等とのマッチングを支援するとともに、「農業を核とした福祉分野をはじめとする多様な分野との連携による農業経営モデル」の創出を図ります。<br>◎障がいのある方をはじめ多様な人材の参画を見据え、本市における農福連携の現状整理や福祉事業者へのニーズ調査等を実施します。あわせて、農業者への情報提供をはじめ、農作業の簡易化・省力化に向けた受入環境の整備等を支援します。 |
| ９－４ | 「農」を生かした新しい価値の創出 | ◎企業や大学、商工・観光分野、スポーツ・文化団体等の多様な主体による「農」を軸とした共創を推進し、農作業支援や農業体験、交流活動を通じて地域農業を支える仕組みを構築するとともに、地域資源を活用した新たな商品やサービス、食の需要の創出により、地域農業の付加価値向上を図ります。 |

## ３．数値目標

※計画（素案）において記載予定

## ４．計画の推進と進行管理

※計画（素案）において記載予定

資料２（参考）

# 第７次山形市農業振興基本計画素案（概要版）

## Ⅰ．はじめに

### １．計画の基本的事項

○計画の目的：山形市発展計画 2030 の農業分野に係る基本計画として、本市農業の「目指す姿（目標像）」を描き、その実現に向けた取組を示します。
○計画の期間：令和９～18 年度（2027～36 年度）の 10 年間。５年目に中間評価と必要に応じて計画を見直します。

### ２．山形市の農業の概況

#### （１）統計データ等　　＊：農林業センサス（2020 年）　＊＊山形市資料

○総農家数 3,232 戸（販売農家 1,737 戸、自給的農家 1,495 戸）＊
○基幹的農業従事者数 2,651 人（うち 60 歳以上の割合 83.4%）＊
○集落営農 18 組織（耕作面積 634ha（主食用水稲 252ha、そば 202ha、大豆 152ha など））＊＊
○経営耕地面積 4,121ha（田 3,380ha、畑 384ha、樹園地 357ha）＊
○認定農業者 371 経営体（耕作面積 2,314ha）＊＊

#### （２）第６次計画での到達点（進捗管理の状況）　＊目標達成状況より事業の進み具合（特に進んでいるもの）を抽出

| 指標名 | 計画策定時（平成 28 年） | 現状値（令和 6 年） | 最終目標値（令和 8 年） | 達成状況等 |
|---|---|---|---|---|
| 新規就農者数（人／年） | 23 | ↗ 27 | 38 | 目標値には達しておらず、近年は横ばいの状態で推移。新規参入者は増加傾向だが、農家継承や法人雇用は横ばいの状態で推移している。 |
| 担い手等への農地集積割合（%） | 65 | ↗ 70 | 80 | 目標値には達していないが、順調に増加。田の集積率は高いが、畑や果樹については、農業者の高齢化や担い手不足が顕著に出ている。※地域計画策定時（R6）における目標地図に位置付けた者（10 年後も営農を継続する見込みの者）の集積率は 50.1%。 |
| 水田畑地化の実施面積(ha) | 174 | ↗ 232.2 | 240 | 令和３年度に目標を達成し、目標を上方修正。新たな目標値には達していないが、現状維持。<br>大豆、そば、麦の転作作物団地の造成等により、実施面積は、計画途中に最終目標を達成。 |
| 中山間地域の戦略農産物の作付面積(ha)<br>※R3 より設定 | 0.03 | ↗ 0.1 | 0.25 | 目標値には達しておらず、近年は横ばいの状態で推移。<br>中山間地域では、農業者等が作物導入に向けて、栽培技術や体系づくりなどに取り組みを実施。 |
| 水稲を 10ha 以上作付している経営体数(件) | 25 | ↗ 46 | 36 | 目標値を達成。各地区の中心経営体に農地の集積・集約化が図られ、令和４年度より大幅に増加。 |

#### （３）山形市農業の強み・特徴

①主要な担い手等を中心に、多角的な農業経営が展開
　・大規模な面積を担う水稲農家、集落営農・生産組合、果樹農家、少量多品目型の個人農家　等
②多種多様な農産物を生産し、ブランド確立、営農支援体制、出荷設備が整っている
③新規就農者や後継者育成の支援体制の整備の推進
　・施設団地やトレーニングファームの整備
④「農地調整委員会」、「地域まるっと農地中間管理方式」による農地集積ノウハウの蓄積
⑤他地域と比較し、農業生産がしやすい自然環境
　・昼夜・季節の寒暖差が大きい、大規模災害リスクが相対的に低い　等
⑥山形大学と連携した中山間地域モデル等の研究が推進
⑦県内最大の消費地を抱えており、地産地消や農商工連携が推進
　・直売等による顧客獲得、加工事業者など異業種との連携が図りやすい
⑧「農」に関心がある市民等が一定数あり需要がある
　・市民農園や体験講座などの申込、サポーター制度の登録があり需要が高い
　・「山形市産農産物の消費を増やしたい」と回答する市民の割合が 68%。
⑨魅力ある観光資源（県内最多の入込客）
　・温泉、自然、樹氷、伝統文化、郷土料理 等

#### （４）山形市農業の弱み・課題

①担い手の高齢化・後継者不足、繁忙期の人手不足
　・農業従事者の高齢化により、高収益作物や新規品目への転換が限定的
　・さくらんぼ、ぶどうなどの果樹、きゅうり等労働集約型作物における人材確保が困難
　・個人の担い手だけでなく、集落営農・生産組合の維持が難しくなってきている
②気象災害による農畜産物の品質・収量への影響拡大
　・夏期の高温・少雨によるさくらんぼ、水稲の品質、収穫量の悪化、乳牛の乳量や繁殖への悪影響
③施設・設備の老朽化（また更新費用の高騰化）による営農継続への影響拡大
　・農業水利施設等の修繕や長寿命化等への対応、水路・農道等の基礎的な保全管理活動の維持
　・ハウス施設、水稲の大型機械、搾乳設備・タンク等の更新負担の増加
④中山間地域の割合が比較的大きい（小区画・分散・傾斜・大きな法面など）
　・農地の集積、大区画化、スマート機械の適用の阻害要因、鳥獣害被害による営農意欲の低下
⑤農地情報の集約が困難な状況
　・農地流動化が停滞気味であり、農地集積による農業の効率化を阻害（特に、果樹の園地承継）
⑥市民等の「農」への関わりが薄い（入口を増やす＆ステップアップ）
⑦支援制度・支援体制の一層の拡充・強化
　・農業者個人だけでなく、集落やエリア（面）、広域組織（受け皿）、分野横断型の支援
　・農業経営のステップアップや多角化を図る支援（農家のチャレンジを応援する）
　・市、JA、公社、県、中間管理機構などの連携、伴走型の支援（コーディネーターの配置等）

## 3．山形市農業を取りまく動向（2036 年に向けた未来予測、社会の動きなど）

### （1）好機・チャンスなどのプラス要因

①水田政策の見直しと政策転換
②環境負荷低減に向けた取組促進・加速化（みどりの食料システム、持続可能な社会づくり）
③食育や生産現場との距離を縮める取組の強化
　・都市住民との接点拡大の下地ができ、地産地消・教育連携・直販の機会が増加
④スマート農業、農業 DX、など省力化技術の実装
　・スマート農業技術の現場導入の加速、直播栽培や農業 DX の普及・実装化　等
⑤地域計画による「将来の担い手」や「農地集積」の推進（支援施策の充実化）
⑥新たな道の駅の整備
⑦多様な担い手、多様なライフスタイル、山形市（農業）に関わりたい人が増加
　・週末農業、副業、半農半 X、農福連携、関係人口、２地域居住、移住・定住等の取組が加速
⑧「技能実習制度」から「育成就労制度」への移行
　・農業分野での人材育成・確保が進む可能性

### （2）脅威・リスクなどのマイナス要因

①人口減少、担い手不足（労働力や消費力が低下）
　〇未来予測（推計）
　　・山形市人口：24.8 万人（2020 年）→22.6 万人（2035 年）→19.9 万人（2050 年）
　　・基幹的農業従事者数：2,651 人（2020 年）→1,282 人（2035 年）→623 人（2050 年）
　　※山形市人口は社人研 R5 推計、基幹的農業従事者数は農林業センサスから指数近似により算出
②農業資材・飼料の高騰による収益圧迫の継続
③気候変動（異常気象）の顕在化
④米政策・米価の先行き等、米市場の不確実性
⑤日本の農業・食に関わる情勢変化
　・世界の食糧、種苗・肥料・農薬、エネルギー問題、関税等による影響
⑥物流 2024 年問題に伴う輸送能力の不足
　・輸送コストの増加等による品質保持、農業経営の圧迫

## 4．第７次計画の策定方針

**方針１**　山形市農業の「目指す姿（目標像）」を描き、「バックキャスト」で取り組みを検討する
**方針２**　「重点テーマ」を設定し、農業者、関係団体等の意見を踏まえて、取り組みを検討する
**方針３**　「アクションプラン」を策定するとともに、毎年度、事業ごとに進捗を評価・改善を図ることにより、取り組みを推進する

**■重点テーマ**
「高温・渇水対策」「スマート農業」「中山間地対策」
「農福連携」「農商工連携」「農観連携」

# Ⅱ．基本構想

## 1．山形市農業の基本理念・目指す姿（目標像）

### （1）山形市農業の基本理念＜第５次計画より継続＞

本市は、農業を命の源である食料を生産するとともに、国土の保全等を担うという役割を踏まえて、山形市農業の振興を図る上で最も大切にする考え方を「基本理念」として設定します。

**基本理念**　**市民の食とくらしを守る**

### （2）山形市農業の目指す姿（目標像）＜2036 年＞

上記の基本理念に基づき、「山形市農業の目指す姿（目標像）」を下記に設定します。

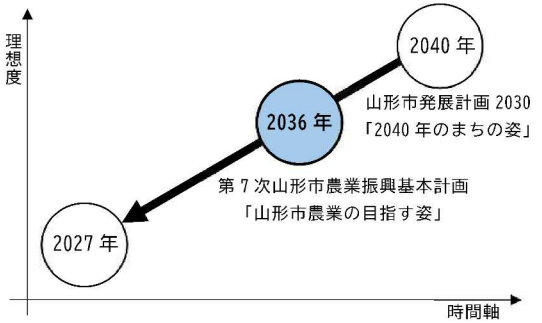
**目指す姿**　**人と人がつながり、農業が持続的に発展する豊かなまち**

| | |
|---|---|
| 1「つなぐ」 | 農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています |
| 2「稼ぐ」 | 省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています |
| 3「まもる」 | 市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています |
| 4「知る・食べる」 | 山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています |
| 5「触れる・楽しむ」 | 多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています |

**山形市発展計画 2030**
**2040 年のまちの姿**
**【農林分野】**

**豊かな自然とおいしい食を未来につなぐ、みどりの循環するまち**

山形市発展計画 2030 の農林分野における「2040 年のまちの姿」を踏襲するとともに、2036 年の「山形市農業の目指す姿」を示します。



## 「山形市農業の目指す姿（目標像）」の具体的なイメージ

基本理念の実現に向けて、「山形市農業の目指す姿（目標像）」の具体的なイメージを下記に描きます。

※赤字は第７次計画における重点テーマに関連するキーワード

基本理念　市民の食とくらしを守る

### 目指す姿　人と人がつながり、農業が持続的に発展する豊かなまち

#### 1「つなぐ」　農地や技術の継承が地域全体で進み、山形市農業の営みが次の世代へと着実に紡がれています

- ●地域での話し合いにより、地域農業のビジョンや農地貸借の取り決めなどが共有され、地域全体で農地を守る仕組みが整っています。
- ●地域ごとに「誰がどの農地を利用していくのか」が地図で分かるようになり、地域の核となる農業経営体に農地の集積・集約が進んでいます。
- ●園地の引き継ぎ相談が早くから行われ、地域・市・関係機関等の適切な役割分担により、ベテラン農家の園地や技術が途切れることなく受け継がれています。
- ●トレーニングファームや園芸団地で栽培技術を学んだ新規就農者が園地を引き継ぎ、直売、加工、**カフェ、観光農園**など、実現したい果樹経営に挑戦しています。
- ●市民・企業・ボランティアなどの多様な主体の参画や都市と農村の交流により、地域の農業環境の保全が広がっています。

#### 2「稼ぐ」　省力型・高収益型の経営により、農業経営が安定しています

- ●**スマート農業**や直播栽培などの栽培技術、大区画化等による省力化により、農業者の負担を減らし、持続可能な農業が実現しています。
- ●戦略農産物を中心とした農産物の高収益化が進み、農家所得が向上し、稼げる農業が実現しています。
- ●法人化や**農商工連携**、輸出や販路拡大など、経営拡大のステップアップが行いやすく、「チャレンジする農業者を応援する仕組み」が整っています。
- ●農業用施設等の整備や更新が計画的に行われ、安心して生産・加工・出荷ができる体制が整っています。
- ●持続可能な農業経営が続けられるよう、**高温・渇水**に適した品種転換や栽培技術・設備を導入するなど、気候の変化に適応した取組が広がっています。
- ●畜産農家による粗飼料の自給拡大や堆肥還元（市内農地での活用）など、耕畜連携による循環型経営に向けた取組が進んでいます。

#### 3「まもる」　市内全域の生産基盤が維持され、誰もが安心して営農できる環境が守られています

- ●土地改良施設の長寿命化や、地域により農道や水路が適切に維持管理され、営農できる環境が守られています。
- ●集落営農の体制強化、作業受託の促進などにより土地利用型作物の栽培が進み、集落の農地を守る体制が整っています。
- ●**中山間地域**では、地域による鳥獣被害対策をはじめ農地及び水路等の適切な管理により、多面的機能が十分に維持されています。
- ●草刈り作業の負担軽減、省力化作物の栽培など、農地を荒らさない取組や支援が広がっています。

#### 4「知る・食べる」　山形市産農畜産物の国内外でのブランド化が進み、農業者を応援する力となっています

- ●**食料品店**や**飲食店**などでの地産地消が進み、生産者の誇りと市民の共感や応援により、地域のブランド力を高めています。
- ●山形市の食の魅力発信等が**観光客や交流人口**の増加につながり、市外や海外との交流が広がっています。
- ●高品質で安全・安心な農畜産物や加工品が多く販売され、生産者に固定客（ファン）がつき、国内外での消費が進んでいます。
- ●山形市産農畜産物の日常的な購入を通じて、大人も主体的に食育を学び、野菜・果物の摂取量が高まるなど、市民の健康な食生活が実践されています。
- ●農業に触れる機会や学校給食を通して、子どもたちの農や食への関心を育み、地域農業に憧れを持つきっかけになっています。
- ●山形市産農畜産物が四季を彩り、家庭や**飲食店**などで郷土料理として親しまれるなど、山形市の食文化として根付いています。

#### 5「触れる・楽しむ」　多様な主体による農業・農村の関わりが広がり、それぞれの暮らしの豊かさが向上しています

- ●市民農園の利用や農業体験を通じて、個々のライフスタイルに合った形で農業との関わりを深める市民が増えています。
- ●市内の親子が畑で学び、自然に触れて楽しむなど、農の体験が日常に根付いた暮らしが広がっています。
- ●農業者同士や**福祉事業者、商工事業者**などがつながり、農に関わる新しい事業の創出（共創）や関係性が築かれています。
- ●繁忙期の手伝いや SNS での情報発信、寄付など、**関係人口や企業**が農業者や地域を支える関わり方が広がっています。

## Ⅲ. 基本計画（令和８年度作成）

（１）実施施策
（２）数値目標
（３）計画の推進と進行管理

資料３

# 計画策定の経過及び今後のスケジュールについて

| | |
|---|---|
| 令和7年　5月 | 計画策定業者選定公募型プロポーザルの開始 |
| 8月 | 委託業者　所在地：東京都<br>法人名：株式会社地域計画建築研究所　東京事務所 |
| 9月 | 基礎調査の実施（アンケート調査、ヒアリング調査） |
| **11月** | **第 42 回農政審議会（11 月 10 日開催）　諮問** |
| **令和8年　2月** | **第 43 回農政審議会（2 月 24 日開催）（基本計画素案（概要版））** |
| 3月 | 議会報告：基本計画素案（概要版） |
| **8月** | **第 44 回農政審議会（8 月 26 日開催）（基本計画　骨子（案））** |
| **11月** | **第 45 回農政審議会（基本計画（案））** |
| 12月 | 議会報告：基本計画案 |
| **令和9年　2月** | **第 46 回農政審議会（次期計画案）**<br>**答申** |
| 令和9年　3月 | 議会報告：第 7 次山形市農業振興基本計画の策定 |

（参考）山形市農政審議会について

山形市農政審議会は、「山形市農業振興基本計画」を山形市から諮問され審議する機関。

【根拠法令】

山形市農政審議会条例（昭和 62 年3月 23 日条例第2号）

【山形市農政審議会委員】

| | |
|---|---|
| 1号委員（知識経験を有する者） | 11名 |
| 2号委員（農林業関係団体の役職員） | 7名 |
| 3号委員（農林業関係行政機関の職員） | 2名 |
| 計 | 20名 |

（参考） 策定方針2「重点テーマ」 の施策・小施策への反映状況について

| 重点テーマ | 関連施策名 | 主な小施策名 | 反映内容・ポイント |
|---|---|---|---|
| 高温・渇水対策 | 4 高収益型農業の推進 | 4-1 水田作物の高収益化 | 高温耐性品種、適正な水管理、直播栽培の推進 |
| | | 4-2 園芸作物の高収益化 | 雨よけハウス整備、気候変動適応技術の導入、高温障害対策 |
| | 5 農業生産を支える環境整備とリスク対策の推進 | 5-1 気候変動適応に向けた農業生産支援 | 気象情報の提供、施設・設備更新支援、災害時の経営支援 |
| スマート農業 | 3 農業の競争力の強化 | 3-1 農業技術・設備等の支援 | 省力化・効率化に資する農業機械・設備の導入支援 |
| | | 3-2 農業 DX の導入・活用の支援 | スマート農業機械、営農管理システム、ICT、自動化機械、統合型 GIS の導入・活用 |
| | 5 農業生産を支える環境整備とリスク対策の推進 | 5-4 鳥獣被害対策の強化 | 捕獲・防護・生息環境管理、防護柵整備、ICT 活用による鳥獣被害対策（農作物被害対策の一環） |
| | 6 中山間地域の農業・暮らしの維持 | 6-2 創造的アプローチによる新たな取組の推進 | 中山間地域に適したスマート技術・ICT の導入支援 |
| 中山間地対策 | 2 地域農業の持続化 | 2-2 農地の集積・集約化の促進 | 地域計画の推進、地区農業のビジョン策定など |
| | 5 農業生産を支える環境整備とリスク対策の推進 | 5-4 鳥獣被害対策の強化 | 捕獲・防護・生息環境管理、防護柵整備、ICT 活用による鳥獣被害対策<br>（中山間地の農作物被害対策の一環） |
| | 6 中山間地域の農業・暮らしの維持 | 6-1 農地・資源利用の促進 | 地域計画の実行、農地利用の受け皿づくり、戦略農産物の産地形成、中山間地域等直接支払制度の活用 |
| | | 6-2 創造的アプローチによる新たな取組の推進 | スマート技術・ICT 導入、農村 RMO の形成、企業・関係人口との協働、健康増進作物等の導入支援 |
| 農福連携 | 1 多様な担い手の育成・確保 | 1-4 多様な人材による農業への参画 | 多様な人材の確保・受入れ、関係機関との連携による労働力確保 |
| | 9 「農」と触れ合う機会の創出 | 9-2 市民の「農」への多様な関わりの創出 | 農業体験や市民農園を通じた段階的な農業参加の仕組みづくり |
| | | 9-3 農福連携の推進 | 農業者と福祉事業所等とのマッチング、多様な分野と連携した農業経営モデルの創出、障がいのある方をはじめとする多様な人材の参画、受入環境の整備 |
| 農商工連携 | 3 農業の競争力の強化 | 3-3 農業経営の高度化・多角化への支援 | 地域資源を活用した農商工連携、新技術・商品開発、販路開拓、経営力向上の支援 |
| | 8 食育・地産地消の推進 | 8-1 ライフステージに合った食育の推進 | 健康・学び・環境・産業の各分野で連携し、市民の健全な食生活の実践を図る |
| | | 8-2 地産地消の推進と食文化の継承 | 農商工連携による商品・メニュー開発、地域の食文化の継承、地域経済の好循環の創出 |
| | 9 「農」と触れ合う機会の創出 | 9-1 山形市農業の強みを活かした観光の推進 | 農・観・商工分野の連携によりプロモーションや商品の造成を進め、山形市の魅力を発信 |
| | | 9-4 「農」を生かした新しい価値の創出 | 企業・大学・商工・観光分野との共創、地域資源を活用した新商品・サービスの創出、地域農業の付加価値向上 |
| 農観連携 | 9 「農」と触れ合う機会の創出 | 9-1 山形市農業の強みを活かした観光の推進 | 観光農園、果樹産地見学、オーナー制度、グリーン・ツーリズムの推進 |
| | | 9-4 「農」を生かした新しい価値の創出 | 農業・観光・商工分野の連携による新たな商品・サービスの創出、地域資源を活用した付加価値向上 |

※特に関連している小施策を抽出